

ImPACT プログラム・マネージャー（PM）による研究開発機関への 研究資金の配分変更について

「革新的研究開発プログラム運用基本方針」（平成26年2月14日総合科学技術会議）に定めるとおり、研究開発機関の選定及び資金の配分は、一義的にプログラム・マネージャー（PM）の権限であるが（有識者会議への報告は必要）、PM に関係する機関（PM との利害関係機関など）を選定、あるいは研究開発資金の配分を変更する場合は、ImPACT 推進会議による承認が必要（当該機関の必要性、合理性、妥当性を判断）。

PM による研究機関の研究開発資金の配分を変更するにあたり、ImPACT 推進会議に対し、それが PM の関係機関である場合、同会議の承認を求めるもの。

PM	配分変更の機関数	PM 関係機関と PM との関わり
藤田	1(1)	PM の出向元の機関（東芝）
山本	2(2)	FIRST プログラムの共同研究者 （理化学研究所）

（ ）：PM 関係機関数

- ・藤田 PM：核変換による高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化

プロジェクト1（放射性廃棄物の分離技術）で新たにアイデア募集を行い選定された8つの研究機関が使用するサンプルを一括で作製するため、本研究プログラムの総資金内で、1機関の研究開発資金の配分を変更するもの。

当該機関は、PM の出向元の機関に該当するが、サンプルを作製する環境が安全性等の観点から優れていると共に、放射性廃棄物に関する研究用の評価サンプルを作製した実績がある。

（研究開発資金の配分変更）

研究開発機関	研究開発責任者	推進会議で本機関を承認した日	当初予定研究資金(百万円)	変更後研究資金(百万円)	今回の増減額(百万円)
東芝	浅野和仁	平成27年3月26日	94	132	+38

- ・山本 PM：量子人工脳を量子ネットワークでつなぐ高度知識社会基盤の実現

プロジェクト3（量子シミュレーション）の進捗により、新たな研究課題に対応するために2機関の研究開発資金の配分を変更するもの。両機関とも PM が過去5年以内に共同研究を行った実績のある機関である。増額する機関は、本プロジェクトの目標を達成するため、当初予定していた開発技術に加え、新たに

別の技術を組み合わせることが有効であると判断したことによる変更である。減額する機関は、前述の増額機関の研究資金の配分、並びに、研究開発責任者を明確にするため、当該機関に所属する研究者が新たに別の研究機関として追加承認（平成27年3月26日承認済、予定研究資金85百万円）されたことを踏まえ、当該機関の研究開発内容を精査し、資金配分を変更するものである。

（研究開発資金の配分変更）

研究開発機関	研究開発責任者	推進会議で本機関を承認した日	当初予定研究資金(百万円)	変更後研究資金(百万円)	増減額(百万円)
理化学研究所	中村泰信	平成26年10月2日	249	154	-95
	樽茶清悟	平成26年10月2日	147	157	+10
	蔡兆申	平成27年3月26日	0	85	+85